

第一章

ショーピッグの育成に必要な豚舎構造と設備、スペースについて

ショーピッグの育成を始める前に、いくつか決めておかなければならない事があります。育成を始めようとする本人やその両親、指導者はその育成計画に最適な豚舎を選ばなければなりません。豚舎には様々な構造のものがあります。設備の違いによって、それぞれの長所と短所があり、物によってはショーピッグとしての能力が育たない場合があります。

豚を選ぶ前には豚舎だけでなく、餌や水のやり方についても検討しなければなりません。体重 50 ポンド (23kg) 以下の豚と 51 ~ 250 ポンド (23 ~ 113kg) の豚が必要とするスペースを以下に示します。

チャート 1 スペースに関する要求

設備	50 ポンド (23kg) 以下	51 ~ 250 ポンド (23 - 113kg)
給餌場の床面積	0.8 m ² /頭	1.9 m ² /頭
運動エリア	2000 m ² /25 頭	2000 m ² /10 頭
豚房の広さ	0.3 m ² /頭	0.74 m ² /頭
豚房の仕切りの高さ	76cm	76cm
スノコ床の面積(なくても良い)	0.2 - 0.4 m ² /頭	0.8 - 1.0 m ² /頭
豚房におけるスノコ床の割合	25 - 100%	25 - 100%
スノコの隙間の幅	1.6cm	1.6 - 2.5cm
スノコの幅	3.8cm	3.8 - 12.5cm
自動給餌機の幅	5cm/頭	7.5cm/頭
	(自動給餌器の幅は 35cm 以上必要)	
飼槽の幅	25cm/頭	33cm/頭
飲水カップ	1 カップ/25 頭	1 カップ/20 頭
ニップル型飲水器	1/25 頭	1/10 頭

チャート 2 飲水に関する要求

豚の大きさ	飲水量 / 頭 / 日
7 - 18kg	2 - 4
18 - 50kg	4 - 6
50 - 110kg	6 - 8
妊娠中の母豚	8 - 11
授乳中の母豚	15 - 19

飲水量は外気温によって変化します。極端に暑い時は表に示した 1 日量の倍量を飲むこともあります。

ハウジング（豚舎構造）

豚舎のタイプによって、豚の育成計画の成功が左右されます。最も良い豚舎は、比較的清潔で涼しく、糞も残らないものです。これが冬場の話だったら、暖かくて乾燥しているというのが理想です。しかし、行き届いた管理と細かい気配りがあれば、それぞれの設備の欠点を補って影響を最小にすることができます。

ショーピッグの育成はあらゆるところで行なわれています。砂地やガレージ、鳥小屋を利用している事もあります。気をつけなければならない大事なことは、それが夏場であれば豚を清潔で涼しいところにおいてやり、たっぷり水を飲めるようにしてやることです。冬場であれば床が乾燥していること、そして敷き料がたっぷり必要です。スノコや網を床材にしている場合、冬の間は補助的なヒーターが必要です。スノコを使わず、豚が糞にいつも触れているような飼い方だと、日常的な駆虫プログラムが必要です（第8章を参照）。

豚を育てるのに最も向いている豚房は、床材が木のスノコや網でできていて、豚に糞尿や泥がつきにくいものです。糞がスノコの隙間から下に落ちるように作りますが、豚が足を痛めないように隙間があまり広すぎてもいけません。スノコ床はファイバーグラスやコンクリート、鉄で作る事もできますが、滑りやすいものはお勧めできません。私の意見として、最も良い育成用の施設は豚房の中に独立した小屋があり、小屋の入り口から木のスノコのエプロンを張り出したものです。エプロンと小屋は安い1インチ×4インチの荒く削り出した木のスノコとゲートで作ります。豚房を枕木の上に乗せて置き、スノコの下まで糞が溜まってきたら、トラクターやトラックで豚房ごと新しいところまで動かせるようにします。もちろん日陰も必要です。自然の樹木でも小屋や豚房の上に高く張ったタープでも結構です。こういう構造物の作り方は農業普及所や学校で教えてくれます。

少し魅力が薄れますが、もう一つの方式は草の生えたところにワイヤーパネルと鉄柱で豚房を作り、豚小屋に連結するというものです。この方式の問題点は、豚が湿った糞尿をつけたまま豚房に戻ってくるので、豚の体や餌、飲み水を清潔で乾いた状態に保つのが難しくなるということです。もしこのやり方しかない場合、豚1頭当りの運動場を2~3倍に広くして木やコンクリートで餌や水をやる台を作ってあげます。これらの設備、特に餌場には日陰が必要です。こういうところで飼われている豚は、たいてい回虫や他の内部寄生虫に感染しています（第8章参照）。

豚房の床はコンクリートで作る事もできます。このやり方だと泥に悩まされる事はありませんが、毎日床の上の糞をとらなければなりません。また、内部寄生虫の感染が問題になりやすいので定期的な駆虫が必要です。

ショーを目指す方の中には、幸運にも両親や家族の誰かが家畜用の小屋を持っている場合があるでしょう。そういう設備はたいてい満足できるものですが、私の経験から言うと換気に問題のあることが多いです。こういう建物を使う時には獣医師や普及員、農業資材業者などに換気の具合について判断してもらったり、冷却ファンや噴霧システムを使って環境が改善できないか見てもらいましょう。

堆肥処理システム

前に説明したような、可動式のスノコ豚舎で豚を飼う場合、糞を除けるためには小屋を台ごと牽引して他の場所に移動させます。もし数頭の豚しか飼わないのだったら、堆肥場は間に合わせのものでいいでしょう。一輪車とスコップがあれば糞尿はすぐに片付けられます。糞を家から少しはなれたところで堆肥にし、秋に野菜を収穫したあとに庭に撒きます（近くの農業普及所で堆肥のデータ表を貰いましょう）。

床材がコンクリートや木の板だったら糞は毎日どけなければなりません。豚舎の近くに堆肥場があるのなら、一輪車で運びます。牽引式のマニュアルプレッダーを豚舎の隣に停めておくのもいいでしょう。豚房の除糞は少なくとも1日1～2回行ないます。毎日きちんと掃除しなければハエが大きな問題となるでしょう。

豚を放牧して飼っているようなとき、豚は糞を積み重ねるように排便します。放牧場が小さすぎると運動場とあまり変わらなくなります。こういう場合、豚がとても気難しくなると多くの人が指摘します。豚は隅の一角を排便するところに決めます。豚の飼育が終わったらこういう場所はきれいに掃除し、耕して種をまきます。どういうやり方がいいのか分からない時、獣医師や経験豊かな先輩に相談しましょう。こういう部分は良識を優先しなければなりません。

スノコ床の下に尿溜や尿溝、水洗システムの設備のある家畜舎が使える場合があります。場合によってはスノコ床の下の糞を自動で掃除してくれるスクレーパーシステムがついているものもあります。このような設備ではスノコの下のスラリーから発生する有毒ガスを排気するファンが付いているととてもうまく働きます。尿溜から尿をくみ上げるためにバキュームやタンクプレッダーなどの設備も必要になります。尿溝には常に水が流れているようにしなければなりません。アンモニアやメタンガスの発生を防ぐ最も良い方法は、常に溝に水をためて糞を水没させておく事です。

もし豚が餌やりや管理するのに都合が悪いところで糞をする習慣が付いてしまったら、他の場所で排糞させるようにトレーニングする事ができます。まずその糞をする場所を念入りに清掃し、その部分に薄く餌を撒きます。これでい

やな習慣をやめさせることができます。

給水システム

新鮮な飲み水を与えるにはいくつかの方法があります。数頭のショーピッグを豚房で飼うのであれば、私はスタンドパイプをお勧めします。これは長さ 1.2m、直径 15cm の塩化ビニルのパイプを立てたものです。底のふさがったパイプを垂直に固定し、パイプの側面に豚の高さに合わせてニップルを取り付けます。このスタンドパイプは豚房の隅に縛り付けて安全に固定します。こうしておけば、塩ビのパイプに毎日水を補充すればよくなります。週に一度はパイプをどかして掃除します。掃除の仕上げに家庭用の塩素剤を使うと良いでしょう。塩素剤を使ったあとはしっかりと隅々まで水洗いしてください。このスタンドパイプは子豚の飲水量をモニタリングするときにも便利です。30 ガロン (114) の樽をスタンドパイプと同じように利用すれば大きな群でも使えます。注意しなければならない事は、樽の中の水が悪くならないように、樽の水を 2 , 3 日で消費するくらいの頭数で使わなければならないということです。

他にも側壁に固定した垂鉛メッキのパイプに飲水用ニップルを取り付けるという方法があります。パイプの上端にホースを接続し、子豚がいつでも水を飲めるようにします。

子豚がいつでも自由に水が飲める自動の給水器が何種類か市販されています。しかし、これらの装置は毎日洗浄しなければならないという欠点があります。また、時々パーツが壊れて豚房が水浸しになっていたり、水が飲めなくなっていたりします。桶を使って水を与えるのはお勧めできません。豚は桶をよく倒しますし、飼い主も毎日新鮮な水を補充するのを忘れていたりします。

給水カップに必要なスペックを示します。他の豚がカップから水を飲んだ後でも続けて適切に水が飲める水量でなければなりません。ニップル型の給水器は 1 分間に 1 ガロン (3.8) 出るようにします。もっと詳細な情報は Dr.バーバラ ストローのウェブサイト (<http://www.msu.edu/~straw/>) で見るができます。

チャート 3 豚の大きさの違いと給水カップを満タンにする時間 (秒)

子豚	60 秒
育成豚	30 秒
肥育前期	20 秒
肥育後期	15 秒
母豚	10 秒

給餌器

豚がいつでも餌を食べられる、自動給餌器に優る物はありません。タンクの容量は2~3ブッシェル(50~75kg)もしくは1頭当り23kgの餌が入る容量がなければなりません。給餌器の餌が出るゲートは、豚が必要なだけ餌が出て、さらに餌がこぼれて無駄にならないように調節しなければなりません。給餌器にはさまざまなタイプがあります。近くの養豚場で一番安くお勧めの給餌器を紹介してもらいましょう。

たとえ経験豊かなアドバイザーがしょっちゅう見に来てくれるといえども、私は皆さんが餌桶を使って餌をやるのは勧めません。この方法では豚が欲しい時に餌を与えるというのはほとんど不可能です。しかし、豚の成長が悪い時などに、補助的な餌を与えるための手段として利用する事ができます。

豚は数時間ほど水やミルクに浸した餌や、溶かした代用乳を好みます。水やミルクに浸した餌を与える事を専門用語でかゆ状給餌法と呼びます。かゆ状給餌法で与える餌は、給餌器で与える餌に追加して与えます。豚の体重が規定のサイズのギリギリしかない時や、暑い時期で餌をあまり食べられないときなどは特にお勧めです(第7章参照)。必要な道具は、豚が一度に仲良く食べられるような仕切りの付いた餌桶と5ガロン(19)のバケツです。

冷却装置

夏の間は、全ての豚が休んでいる時に日陰で扇風機にあたれるようにします。豚房がコンクリートやスノコの床だったら、扇風機の前面カバーやその近くに噴霧器をつけて揮発熱で冷却できるようにします。このような噴霧器は資材屋さんやカタログ通販でも購入できます。

換気扇を建物の中に設置する場合、夏の間は2分間で室内の全ての空気を入れ替えられるように設定します。極端に暑い時には、一分間で完全に豚房の空気を入れ替わるようにします。夏場の最適な換気扇の運用法は、換気扇をサーモスタット(自動温度調節器)に接続し、室温が動物にとって不快な温度に達した時に稼働させる事です。グローイング(肥育前期)の豚は4.4~15.5の範囲を特に好みます。50ポンド(23kg)までの子豚では冬場も温度を18~20に保ち、換気は1時間に4回で、冷えた空気を床に近い部分から排出します。

ファンの能力はCFM(換気量:立法フィート/分)で、時にはさらに圧力も加えて表します。一般的な大手メーカーのファンの圧力は0.125インチになっています。理解しなければならないのは、単にファンの力はCFMで表されているという事です。ファンにはCFMsが記載されていて、適切なスピードでファンを動かした時の換気量がCFMで表されています。仕様書にもこの情報は載っ

ているはずで。

豚舎の幅と奥行き、高さを量って室内の容積がわかれば、豚舎の空気を毎分もしくは 2 分毎に換気するのに何台の換気扇が必要なのがすぐにわかります。メーカーによっては対応できる豚の頭数で換気扇の能力を表している事もあります。このような情報は無いよりましですが、自分で計算した方が役に立ちます。スピードが可変式の換気扇では、3 段階で CFM を表している事が多いようです。私はこの本をあまり細かい情報だらけのマニュアルにはしたくありませんので、読者の皆さんは普及員や販売店、アドバイザーなどに相談して換気に関するアドバイスを貰った方がいいと思います。

豚に風を送るためにつけた扇風機に噴霧器を取り付けた場合、噴霧する水の量は 1 時間に 2~3 ガロン (7~12) ぐらいで十分です。ノズルが何度も詰まって頭痛のタネにならないように、ウォーターラインにはフィルターをつけましょう。もし絶対に間違いの無い精巧な設備にしたいのなら、ウォーターラインのバルブをサーモスタットに連結し、温度が上昇した時だけスプレーするようにするととても良くなるでしょう。

外の日陰など、野外の豚の休み場に扇風機をつけるのなら 2500CFM の換気扇に噴霧器をつけたものが 1~ 数個あれば十分でしょう。あなたの設備が適切かどうかは、豚を見て快適そうかどうかを常識的に判断すればよいです。

ショーに必要なもの

ショーに出品するために絶対必要なものというのはそれぞれの好みで分かります。これから述べる事はあくまで私の好みであり、他にもたくさんの良い物や意見があります。

ショーの期間中に豚に餌や水を与えるための準備が必要です。小型の自動給餌器が最適ですが、一般に使われているのは餌桶です。多くの場合ではショーで使える豚房のスペースは限られているので、餌の時間以外は桶をどかすようにします。給水器は先に紹介したのより小型のスタンドパイプ(直径 10~13 cm、高さ 1.2m) を豚房の隅に設置します。豚は常に水を必要とします。水桶を使うと豚が水を飲み終えた後に倒したり、こぼれた水で寝転ぼうとして豚房の中を汚してしまいます。ショーに移動して水質が変わったとき、豚が水にうまくなじめない事があります。豚がいつも飲んでいる水を家から持っていきましょう。

繰り返しになりますが、扇風機で豚を冷やしてやるのは重要です。豚房から水が洩れないようになっていたら小型の噴霧器を使いましょう。豚房の日よけが満足できないものだったら、間に合わせでも日陰を付け足してあげましょう。

豚を洗い場で洗う時はヘアーシャンプーとブラシ、ホースを使いましょう。

当たり前ですが、ホースやスプレーなどの道具は友達と共用すればダブルで用意する必要はありません。私は豚を洗うのに柄の長い豚毛のブラシを愛用しています。

ショーの時には小型のハンドスプレーがあると何かと便利です。防虫剤や、ショーの直前にオイルや冷却用の水を豚にスプレーしてやる時などにすぐ使えます（その他の使い方は第 10 章にあります）。

ハードル板は豚の喧嘩をやめさせたり、豚房から洗い場、ショーのリングへの通路で豚を誘導する時などに便利です。このハードル板は資材カタログで買ったり、3/8 インチ（1cm）の厚さのベニヤ板で作る事もできます。幅 36～42 インチ（91～107cm）で高さが 24～30 インチ（61～76cm）、上部の中央に持ち手の切込みを作ります。ペンキやニスで目塗りしましょう。ショーの参加者たちはよくハードル板に自分の名前や農場のロゴをペイントします。

ショーによってはエントリーしたクラスの ID ナンバーを服につけて参加することがあります。こうするとジャッジがそのクラスに誰が参加しているのかわかりやすくなります。自分の豚のエントリーナンバーをズボンにつけておくのが安全で確実な方法です。他のショーではカード方式の ID システムのみで、そのクラスが終わった時にショーの係員に提出します。

私がショーマンとして最もうまくいったと思ったことは、ジャッジの前で豚をリングの周りを歩かせる時、ステッキを使った事です。何を使ってもいいのですが、ショーに向けて調教して慣らせましょう。短いムチで豚をたたくのも良い方法です。電気のショッカーなどは絶対に使ってはいけません。

ショーのルールで豚の毛を刈っても良いという事になっているのなら、やったほうが良いと思います。しかし、そのショーでやっても良いという事が確認できるまではやってはなりません。毛刈りした豚を出荷する時、毛を処理するために特別な処置が必要になるという理由で、豚が値引きされる場合があります。毛刈りはオスター社やアンデイス社のバリカンに 10 番の刃を使うのが一般的です。刃が鈍くなったり折れてしまうことがあるので、替え刃のセットを用意しておく事をお勧めします。バリカンにはオイルも挿しておきましょう（第 10 章参照）。